

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201021		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートライフ小鹿公園前 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡市駿河区小鹿927番地1号		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyu_detail_2016_022_kani=true&ligvsvocd=2294201021-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護と併設された明るく清潔感のある事業所です。施設の近くに大きな公園があり、散歩するのに最適な環境です。認知症対応型共同生活介護の名の通り、認知症のあるご利用者に対し、他のご利用者や職員と手を取りあいながら、共に暮らし共に生きる生活の場所としてご利用頂いています。できる方には、洗濯物をたたむ・食器を拭く等の作業を行って頂く等、できる限りその方の持っている能力を活かせるように支援させて頂いています。地域のイベントへの参加や地域の方を招いてのイベントの開催等、地域との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護付有料老人ホームでは年数回、衣類や和小物の専門店による販売会があり、また県内に50余ある法人内事業所で予選会から始まるベタボード大会の本選会は小規模多機能事業所が会場となる等、併設でのスケールメリットが豊富な事業所です。地域の祭りにはスーパーボール、ヨーヨーでの出店を果たし、本年は昨年の100を200個と伸ばし、また職業体験の中学生、大学生を受入れたほか、さわやかサロン小鹿での地域交流を通じて大正琴のボランティア訪問と、新たに始まったことも沢山あります。またシニアサポーターの受入も昨年からはじめ、マジック、日本舞踊、ハーモニカ、バンドと娯楽の時間が増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各会議にて、理念の唱和をおこなっている。1階の事務所に掲示している。チーム会議にて、理念の意義を説明し、意識付けをおこなった。	会議をはじめ職員が顔を合わせる場で「意味」を噛み砕いての説明を管理者が繰り返しておこなっています。絵の得意な職員が利用者の似顔絵を描いたりとの取組みに管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度以上、地域交流イベント(ふれあい祭り等)を開催している。また、清掃の日などを通して交流をしている。地域のサロンにもお客様を連れて参加している。	地域の祭りにはスーパーボール、ヨーヨーで出店し、今年は去年の100を200個と伸ばしています。職業体験の中学生、大学生を受入れたほか、地域からの紹介での大正琴披露と、新たに始まったこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方に対し認知症の事例とその対策を運営推進会議などで情報提供している。一般の地域住民の方にはふれあい祭りで相談会を行い認知症の理解・対応が出来る様に計画・実行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス実施状況や事故報告等の情報提供を行い、様々な意見を頂戴し、話し合いをおこなっている。また、そこで頂いた意見をサービスに活かしている。	地域包括支援センター、民生委員、自治会長を中心として隔月開催が叶っています。開催日には管理者がメンバーへ直接挨拶に出向き、次回の開催日も併せて伝え、丁寧で真摯な対応が見られます。	開催会場が1階のため、メンバーに2階での暮らしぶりを実際に見てもらえる工夫があると、なお良いと思います。例. 終了後、おやつの会食に誘う
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点があった際には、市の担当者にお問い合わせをし、アドバイスや指示を頂いている。介護相談員の受け入れもおこないい、随時情報交換・相談をおこなっている。	市役所職員の運営推進会議の出席はありませんが、介護相談員制度の利用はあります。またシニアサポーターの受入も昨年からはじめ、マジック、日本舞踊、ハーモニカ、バンドと娯楽の時間が増えています。	介護相談員からの口頭報告が希薄なようですので、ノートを用意することも検討すると良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回開催の会議内で研修をおこなうと共に、マニュアルを整備し職員が閲覧できる体制を整えている。グループホームの玄関は施錠しておらず、ベッド柵等の身体拘束もおこなっていない。	現在対象となる人はいません。係る事態となれば身体拘束廃止委員会を結成し、法令に沿って検討しています。休憩が食事時間を含めて1時間、実質45分だったことから、現管理者着任後「1時間とる」体制とし、職員のストレスが溜まらないよう改善しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し常に注意を払い、防止に努めている。3ヶ月に1回高齢者虐待チェックシートを職員全員に行っており、虐待防止に対する意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全体会議内の研修に組み込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をとり契約の内容について細かく説明するとともに、本人・家族の不安や疑問を尋ね、理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会やお客様アンケート、日頃の面会にてご家族からの意見・要望を収集している。また、ご利用者には、日頃からコミュニケーションを図り、いつでも職員に対し意見・要望を伝えられる環境づくりをしている。介護相談員の受け入れもしている。	運営推進会議への参加促進は成果が少しずつであり、終末期における心配や質問等具体的な意見交換につながっています。毎月「花みずきだより」を届け、年2回の家族会では在宅時代の苦労話もこぼれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・月一回の会議を通し意見の吸い上げや個々に話をする時間を設けている。	管理者は、1、2ヶ月と細目に面談するよう努め、不平不満を早めに収集しています。管理者も現場に顔を出すようにしているため直接の進言も多々あり、「居室担当をつける」といったケアを高める内容が挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、半年毎に面談を行い個別に評価をしている。また、その際に目標設定をし、職員が向上心を持ってやりがいを感じながら働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、教育トレーナーによる介護技術の勉強会をおこなっており、全職員が参加できるように計画的に開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加やふれあい祭りへの同業事業者の招待等を通じて交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人や家族と面談をおこない、不安な事や要望を確認しケアプランに組み込むと共に、全職員が事前に情報共有できるよう取り組んでいる。また、利用開始時は慣れるまで積極的に職員が関わりを持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に本人や家族と面談をおこない、不安な事や要望を確認しケアプランに組み込んでいく。また、家族の意向に耳を傾け、コミュニケーションを図りながら良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族との面談の中で潜在的なものを含めたニーズの把握に努め、それに優先順位をつけることで、ご利用者やご家族の希望に添ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や嗜好をアセスメントや会話の中で情報収集し、ご利用者を歴史を持った尊厳ある人間としてとらえ、本人の強さを引き出して施設内でも自立した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日々の生活の様子や言動・意向等を必要に応じてご家族に情報提供している。連絡を密に取りながら、ご家族として支援して頂きたいことはなるべくお願いしており、ご利用者とご家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族了解の下、知人や友人の面会を受け入れている。ふれあい祭りや地域のイベントへの参加等により地域との関係性が保てるよう支援している。	お茶を点てたり、店舗への買い物と、「これまでやれていたこと」の継続例とともに、「食事をとる習慣がない」という人が今では1日3回完食することをはじめ、「此処が馴染み」となったエピソードも少なからずあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や能力を把握し、日常生活やレクリエーションの中でお互いがコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時においても、今後いつでも相談を受け付ける旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に近い存在として寄り添いながら対話し、出来る限り意向に沿えるようにしている。	書面での聴き取りを慣行し、例えば「饅頭～」の声に皆で饅頭づくりをするとの和みの時間が生まれています。「これ何?」「ホキ」「漢字は?」と、スマホで調べだす職員の姿に本件が充実していることが観えました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時に、一人ひとりの生活歴を本人・家族から確認している。また、サービス利用中の利用者や家族との会話からも情報を収集し、必要な情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面談にて把握に努めており、アセスメント表やフェイスシートに明記している。また、心身状態や有する能力は日々変化することもある為、日々観察し、変化があった際は、申送りに記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の能力の変化に対応できるよう、定期的にカンファレンスを開催し、ケア方針の決定、見直しを行っている。ケア方針を家族と話し合い、ケアプランを作成している。	「担当」と名付けられた職員と介護支援専門員の資格をもつ計画作成担当が協議するとともに、現場情報を随時職員から聴取して介護計画書を作成しています。計画にはマッサージ等ほかのサービスが入る人もいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をパソコン上で管理し、職員間で情報を共有している。また、定期的もしくは必要に応じてケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、理美容手配やカルチャー教室、イベント参加などの取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員も参加する運営推進会議の開催や地域のボランティアを招いてのイベントの開催、地域イベントへの参加等を通して、地域との交流を図りながら利用者一人一人が地域の一員として有意義に生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による1ヶ月に2回の訪問診療、24時間対応可能な臨時往診・医療相談や訪問看護による1週間に1回の体調管理等、適切な医療を受けられる体制が整っている。	月2回訪問診療のある協力医に全員が変更し、眼科などの専門医は家族に通院介助をお願いします。併設事業所には常時看護師が1、2名いて緊急時への安心とともに、週1回訪問看護での健康管理があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回の訪問看護の際に、日頃の関わりの中で気づいたご利用者の身体状況の変化等を伝えて相談している。その結果、必要に応じて、主治医への連絡や受診の手配等をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状態を医療機関に伝えている。退院時には医療関係者との情報交換を行い、必要に応じて退院前カンファレンスに参加する等、適宜協力体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、重度化した場合の方針や施設でどこまでの対応ができるかを説明している。主治医や訪問看護師と連携を図っている。	バンドマンだった人の看取りでは音楽を流し、バイタル変化で本人も聞いているのが解り、気持ちを一つにしてお見送りが叶いました。「辛かった」と言う職員には「最期までみられたことが素晴らしいことなんだよ」と諭し、偲びのカンファレンスも開いています。	緊急搬送の折に必要な書面(項目)を改めて確認することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度の会議にて、看護師による研修をおこなっている。緊急対応のマニュアルを作成し、全職員が閲覧可能となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練(事業所外の訓練にも参加)をおこない、有事に備えている。また、緊急避難経路図を見える場所に掲示している。	「埋もれた人を救い出す場面では瓦礫の重さを当てるクイズや汁粉が用意された」地域の防災訓練には管理者と利用者1名とで参加しています。「新人職員が増えた～」の進言から昨年はAED訓練をおこなっています。	来年度は消防署職員の立ち合いを求め、シーツを使った搬送方法など基本的な技術・知識の標準化を図ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修や認知症研修等にて、常に人格を尊重した言葉かけ・行動をプライバシーの保護に努めるよう職員に教育をおこなっている。倫理綱領を1階の事務所に掲示している。	法人本部教育チームが3ヶ月に1度来訪して、個別のマナー研修が実施され、特に言葉遣いが向上しています。「～ちゃん」づけは厳禁としていますが、下の名前前で呼ぶのは許容範囲としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の声を傾聴し、職員主導では無く利用者が主体となって意思表示や自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活習慣やペースを尊重しており、職員主導の生活にならないように常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員付き添いでの外出による理美容、または訪問理美容を実施している。また、衣類はご本人が気に入った洋服を自分で選んでいただく様に支援している。定期的にかわにしの衣料品の販売会にも参加して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、お客様と一緒に食事作りのレクリエーションを行っている。お客様と食べたいものを相談し、決めている。できる方には、食器を拭く等の作業をして頂いている。	業者から届く食材を職員が調理する毎日のなかで、カレーを皆で作ったりとの食レクが月1回おこなわれ、賑わっています。本人意向や身体状態に副って車いすのまま食事を摂る人が3名います。	2点の検討を期待します。①テーブルがやや小さ目なため、食事のときだけでもハーフのものがあと1つ追加できないか ②食材費なのか、食糧費なのかの見直し
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配送業者よりカロリー計算されたメニューの食事を提供している。嚥下状態に合わせた食事形態の変更や禁止食材の設定もおこなっている。食事摂取量の確認をおこなっている。また、毎日の水分チェックも行っており、適切な量の水分を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方にはご自分で口腔ケアをして頂き、困難な方には職員が介助をして口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意が曖昧な方でも、安易にオムツにせず、その方の状態に合わせてトイレ誘導を行う事で可能な限りトイレで排泄ができる様支援している。	3箇所ある内、1つが車いす対応のトイレです。全員にトイレ誘導をおこなうことで、全介助で脚に力が入らなかった人も都度力を入れる積み重ねから、立位が可能となった嬉しい例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めたうえで、運動や水分摂取を促している。必要に応じて下剤を服用して頂き、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はほぼ決まっているが、入浴回数や入浴時間は極力本人の希望にあわせて介助を行っている。	週3日をめやすとし、足拭きマットは共用、洗身タオルは個々毎に消毒したものを共有しています。やや深めの浴槽のため、足腰が弱くなった人は階下の機械浴ですが、身体も楽でゆずを浮かべることもできています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の睡眠パターンを把握し、日ごろのパターンに合わせた時間に就寝して頂いている。日中も、体調や希望に応じて居室で休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬の表を保管し、変更時には差し替えをしている。日々、服薬の管理と体調の観察をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や現有能力・ニーズ・趣味等の把握に努め、それらの情報をレクリエーション等の活動に活かしている。ご利用者一人一人が、楽しみや生きがいを持って生活できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の祭りや散歩等で外に出かけている。また、定期的な外出レクができるよう計画を実行している。	年間計画は特段ありませんが、休浴日の日曜日には季節の花見、駅や日本平周辺へのドライブ外出をしています。以前は個別対応で河口湖オルゴールの森、沼津の海洋博物館にも足を延ばしていましたが、重度化が進み現在はおこなえていません。	ベランダでの外気浴、体操などが積極的に組み込まれると、なお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所でお預かりしている。外出時の買い物はお預かりした金額の中で、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より了承が得られれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な馴染みやすい空間になる様に配慮している。	ごげ茶色のシックなロールカーテンがエッセンスとなるリビングには職員による利用者の似顔絵、利用者が描いた風景画がしっかりとマッチし、掃出し窓の向こうには茶話会もできるベランダが広がり、空間が倍あるような錯覚を覚えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に仲の良いご利用者は隣の席にする等、ご利用者間の相性に合わせて座席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ちいただくようにご家族にお願いしている。	書道や絵手紙が趣味の人は敷物を入れて、馴染んだ小机やチェストとともに日本間風に設えています。家族写真や造花、折り紙で彩を添える居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりを付け、お客様の安全を確保し、トイレの場所も見分けがつくように床にマークをつけている。また、利用者個々の身体状況に合わせてポータブルトイレ等の福祉用具を個別に利用して頂いている。		